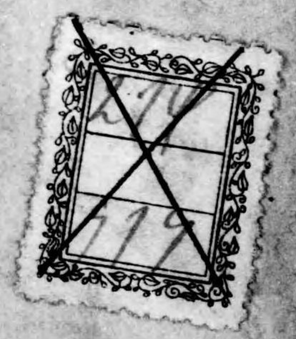
特101
1 559

兵器保存要領

第六類



始

特101
55

帝國圖書館藏

第六類　測遠機、眼鏡、測角器及望遠寫眞機

大正
3. 9. 4
内交

目次

第一編　通則……頁五
第二編　應式測遠機……一五
第三編　芭斯式測遠機……二一
第四編　三七式砲隊鏡……二七
第五編　雙眼鏡……三三
第六編　測角器……三九
第七編　望遠寫眞機……四九

第六類　第一編　通則

第六類　第一編　通則

目次

第一章　手入……五頁
第二章　格納……七頁
第三章　檢査……九頁
第四章　取扱上ノ注意……一一

第六類　測遠機、眼鏡、測角器及望遠寫眞機

第一編　通則

第一章　手入

第一條　眼鏡類使用後ハ硝子面及其ノ他各部ヲ叮嚀ニ拭淨シ要スレハ摩擦部ニハ塗油シ其ノ機能ヲ圓滑ナラシメ又發銹ノ虞アル部分ニハ防銹用脂油ヲ塗施スヘシ

第二條　手入ニ關スル注意事項左ノ如シ

一　手入ハ成ルヘク連晴乾燥ノ日ヲ選ミ砂塵及濕氣ヲ受ケサル清潔ナル場所ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ手入前手ヲ洗フヲ要ス

二　拭淨ニハ清潔柔軟ニシテ脫毛ノ虞ナキ毛筆又ハ刷毛及清潔ナル

絹布又ハ洗ヒ晒シタル金巾布ヲ用ウヘシ又此等ノ材料ハ精溜シタル酒精、「エーテル」又ハ「ベンジン」等ノ溶劑ヲ以テ洗滌乾燥シ脂油、塵砂等ノ附著ヲ避ケ且他ノ用途ニ使用スヘカラス

三　硝子面ヲ拭淨スルニハ之ヲ下方ニシ毛筆又ハ刷毛ヲ以テ表面ニ附著セル塵埃ヲ輕ク拂ヒ落シタル後絹布又ハ金巾布ヲ以テ表面ヲ拭ヒ要スレハ絹布又ハ金巾布ノ一部ニ少量ノ酒精、「エーテル」又ハ「ベンジン」等ノ溶劑ヲ浸シ硝子面ニ塗リ其ノ蒸發スルニ先チ布片（絹布又ハ金巾布）ノ乾燥セル部分ヲ以テ輕ク之ヲ拭ヒ二、三回反復シテ硝子面ヲ清潔ナラシムヘシ但シ多量ノ溶劑ヲ用ウルトキハ「レンズ」室ニ侵入スルノ害アルヲ以テ之ヲ避クヘシ

四　「フランネル」、紙、鹿革等ハ硝子面ヲ腐蝕、搔傷スルノ虞アルヲ以テ用ウヘカラス

五　眼鏡囊及眼鏡鞘ハ通常乾布ヲ以テ之ヲ拭淨スルモノトス但シ表皮ノ損傷又ハ剝離セルモノハ少量ノ複合脂ヲ塗施シ乾布ヲ以テ之ヲ拭淨スヘシ

六　眼鏡囊及眼鏡鞘ニ附屬セル革條類ハ革質ノ硬化セサルヲ度トシ少量ノ複合脂ヲ表面ニ塗施スヘシ但シ硬化甚シキモノハ革ノ裏面ニモ塗施スルヲ要ス

七　脂油中ニ含ム有害ナル蒸發氣ハ硝子面ヲ侵蝕スル虞アルヲ以テ金屬ノ摩擦部及革具ニ塗施スヘキ脂油ハ品質良好ナルモノヲ選ミ且多量ナラサルヲ要ス

第二章　格納

第三條　一時使用セサル眼鏡類ハ其ノ蓋ヲ正シク裝シ接眼鏡ヲ伸縮シ得

ルモノニ在リテハ充分ニ之ヲ短縮シ嚢又ハ匣内ニ收容シ常ニ乾燥セル場所ニ格納スヘシ但シ濕リタル嚢又ハ匣内ニ收容スヘカラス

第四條　使用後直ニ眼鏡類ヲ甚シク温度ヲ異ニセル容器ニ入ルルトキハ硝子面ニ露ヲ生スルコトアルヲ以テ温度ノ略齊一トナリタル後ニ於テスヘシ

第五條　濕氣多キ時又ハ雨雪天時ニ使用シタル眼鏡類ハ硝子面其ノ他各部ヲ拭淨シタル後一時眼鏡ノ嚢又ハ匣ノ蓋若ハ對物鏡蓋ヲ開キ置クヲ可トス

第六條　久シク使用セサル眼鏡類ハ乾燥期ヲ選ミ乾燥セル場所ニ於テ乾燥セル箱（箱ノ下ニ枕木ヲ設ク又箱ハ硝子製ヲ可トス）内ニ收メテ之ヲ密閉シ且温度ノ變化激シカラサル乾燥セル室（日光ノ直射セサル明ルキ室ヲ可トス）内ニ格納スヘシ但シ箱内ニハ「ナフタリン」又ハ鹽化「カルシウム」ノ類ヲ入ルヘカラス

第七條　眼鏡類ヲ箱内ニ收容スルニハ之ヲ動搖セサル如ク固定スヘシ但シ之カ爲吸濕ノ虞アル塡物ヲ用ヰサルコト及眼鏡軸ヲ歪曲セサルコトニ注意スヘシ

第八條　雨期ニ於テ己ムヲ得ス眼鏡類ヲ格納スルトキハ成ルヘク乾燥セル室ニ於テ箱内ニ密閉シ雨期後前諸條ニ依リ更ニ手入ヲ行ヒ格納スルヲ可トス

第九條　眼鏡類ヲ箱内ニ密閉格納スルニハ附屬ノ容器、革具類ヲ分離スヘシ

第三章　檢　査

第十條　眼鏡類ハ硝子面ノ狀態、防濕裝置ノ良否及各部ノ機能等ヲ檢査スヘシ

第十一條　眼鏡類ノ檢査ハ接眼鏡及對物鏡ノ兩方側ヨリ之ヲ行フヘシ但シ接眼鏡ノ方側ヨリ見レハ曇リ又ハ腐蝕痕ヲ見ルコト能ハサル場合ニ在リテモ之ヲ對物鏡ノ方側ヨリスレハ微細ナル曇リ又ハ腐蝕痕モ之ヲ發見シ得ルコトアルモノトス

第十二條　眼鏡類ノ檢査ニ於テ特ニ注意スヘキ事項左ノ如シ但シ左記各號ノ闕點ヲ發見セハ修理ノ手續ヲ爲スヘシ

一　硝子面ニ灰白色ノ曇リ、斑紋等ノ腐蝕痕ヲ生セルモノナキヤ

二　硝子面ニ細根狀ノ腐蝕痕ヲ生セルモノナキヤ（之ヲ放置スルトキハ漸次增加シテ網眼狀トナリ機能ヲ害スルニ至ル）

三　二枚若ハ二枚以上貼リ合セタル「レンズ」ニ在リテハ粘著劑（カナダバルサム）變質シテ接面ニ斑點又ハ斑紋ヲ現ハスモノナキヤ

四　眼鏡類ノ內部ニ通スル間隙ニ塡實セル油砂、石膏又ハ「バテー」ノ著シク剝脫セルモノナキヤ

五　眼鏡類ノ外部ニ施セル塗料ノ剝脫セルモノナキヤ（塗料ハ金屬又ハ皮革ヲ保護シ且內部ニ對スル濕氣ヲ防クノ効アルヲ以テ甚シク剝脫セルモノハ機能ヲ害スルニ至ル）

第四章　取扱上ノ注意

第十三條　眼鏡類ハ望遠寫眞機附屬ノモノノ外分解スヘカラス

第十四條　眼鏡類ハ其ノ結構精巧緻密ナルヲ以テ之カ取扱ハ特ニ叮嚀ニシテ注意周到ナルヲ要ス

第十五條　眼鏡筒ノ接合部及螺著部其ノ他濕氣ノ滲入スル虞アル部分ハ之ヲ防護スルコトニ注意スヘシ濕氣多キトキ又ハ雨雪天時ニ使用スル場合ニハ特ニ此ノ注意ヲ必要トス

通則　取扱上ノ注意

第十六條　硝子ハ其ノ質脆弱ナルヲ以テ眼鏡類ヲ衝突若ハ墜落スルトキハ之カ爲硝子ヲ破損スルコトアリ又硝子面ハ搔傷ヲ受ケ易キヲ以テ拭淨ニ當リ特ニ注意スヘシ

第十七條　塵埃ノ附著ハ眼鏡類ノ明視ヲ害シ又永ク之ヲ放置スルトキハ硝子面ヲ腐蝕シ遂ニ斑點又ハ斑紋ヲ現ハスニ至ルヲ以テ硝子面ハ常ニ清潔ナラシムルヲ要ス

第十八條　硝子面ハ常ニ乾燥シアルコトニ注意スヘシ又雨露若ハ濕氣ト永ク接觸スルトキハ其ノ表面ニ灰白色ノ曇リ又ハ斑紋ヲ生スルニ至ルヲ以テ此ノ場合ニハ直ニ之ヲ拭淨シタル後第二條第三號ニ示ス溶劑ヲ以テ叮嚀ニ拭淨スルヲ要ス特ニ海岸ニ於テハ此ノ注意ヲ必要トス

第十九條　硝子面ニハ脂油又ハ「バラフイン」ノ類ヲ觸レシムヘカラス若之ニ觸レタルトキハ眼鏡類ノ明視ヲ害シ或ハ硝子面ヲ侵蝕スルコトアルヲ以テ第二條第三號ニ示ス溶劑ヲ以テ叮嚀ニ拭淨スヘシ

第二十條　硝子面ニ指ヲ觸レサルコトニ注意スルヲ要ス若指ヲ觸レ其ノ儘之ヲ放置スルトキハ指ノ痕跡ハ漸次斑紋トナリテ現ハルルヲ以テ第二條第三號ニ示ス溶劑ヲ以テ拭淨スヘシ

第二十一條　硝子面ニ泥土等ノ附著セシ場合ニハ毛筆又ハ刷毛ニ少量ノ清水ヲ浸シ硝子面ヲ下方トシ眼鏡類ノ內部ニ水ノ滲入セサルコトニ注意シ叮嚀ニ洗滌シタル後第二條第三號ニ示ス溶劑ヲ以テ拭淨シ乾燥セル絹布又ハ金巾布ヲ以テ拭淨スヘシ

第二十二條　前條ノ手入ヲ行フ餘裕ナキトキハ濕リタル布片ヲ以テ表面ヲ强ク摩擦スルコトナク又布ノ一部ヲ再用セサルコトニ注意シテ泥土ヲ拭ヒ去リ使用ニ差支ナキ程度ニ至ラシメ時機ヲ得レハ直ニ前條ニ依リ手入ヲ行フヘシ

通則　取扱上ノ注意

第二十三條　眼鏡類ハ携帶スルニ當リテハ成ルヘク動搖又ハ衝突ヲ避ク
ルコトニ注意スヘシ

第六類　第二編　應式測遠機

目次

第一章　手入……一七頁
第一節　常用品ノ手入……一七
第二節　貯藏品ノ手入……一七
第二章　格納……一八
第三章　檢査……一九
第四章　取扱上ノ注意……二〇

第六類　第二編　應式測遠機

第一章　手入

第一節　常用品ノ手入

第一條　使用後各部特ニ青銅ノ摩擦部及齒輪部ヲ叮嚀ニ拭淨シ鐵部ニハ「ワセリン」ヲ塗施シテ發銹ヲ防クヘシ

第二條　半圓水平机ノ木部ハ使用後乾布ヲ以テ叮嚀ニ拭淨スヘシ若其ノ表面ニ塗布セル「ワニス」ノ剝脫スルトキハ濕氣ヲ吸收シテ偏歪ヲ生スルコトアルヲ以テ極メテ稀薄ナル「ワニス」ヲ他ノ部分ト同一程度ニ達スル迄反復塗布スヘシ

第二節　貯藏品ノ手入

第三條　半圓水平机ハ覘準儀ノ垂直旋軸ヲ受クヘキ垂直孔、緣鐵及螺絲部等發錆ノ虞アル部ニ格納用礦油ヲ塗布スヘシ

第四條　覘準儀眼鏡ヲ除クハ鐵部ニ格納用礦油ヲ塗布シ黃銅部及靑銅部ハ之ヲ拭淨スヘシ

第五條　眼鏡ハ硝子面其ノ他各部ヲ叮嚀ニ拭淨スヘシ

第二章　格納

第六條　半圓水平机ハ水平ニ支持シ得ヘキ枕木ヲ設ケタル箱內ニ收メ動搖セサル如クシ成ルヘク乾燥セル倉庫ニ格納スヘシ

第七條　覘準儀眼鏡ヲ除クハ垂直軸ノ分畫ヲ零ニ合シ附屬水準器ト共ニ箱內ニ收メテ倉庫ニ格納スヘシ

第八條　眼鏡ハ接眼鏡ヲ充分短縮シ確實ニ對物鏡及接眼鏡ノ蓋ヲ裝シ箱內ニ收メテ之ヲ密閉シ乾燥セル倉庫ニ格納スヘシ

第三章　檢査

第九條　格納セル測遠機眼鏡ヲ除クハ毎年少クモ一回之ヲ檢査シ半圓水平机ノ鐵部ニ發錆ノ徵ナキヤ、間材等ノ黑色塗料ハ剝脫龜裂ナキヤ、板ニ反張割裂ヲ生セサルヤ、覘準儀ノ各部ハ歪曲、損傷又ハ發錆ナキヤ、水準器ノ溶液漏出シタル形跡ナキヤ等ニ注意スヘシ又隔年少クモ一回之ヲ組立テ機能上ノ檢査ヲ行フヘシ

第十條　眼鏡ハ毎年少クモ二回一回ハ雨期後左ノ各號ニ就キ檢査スヘシ

一　筒ニ歪曲、損傷ナキヤ

二　遊動圓筒ノ伸縮ノ機能ニ故障ナキヤ

三　「レンズ」及較合絲其ノ他內部ニ破損ナキヤ

四　硝子面ニ曇リ、斑點又ハ斑紋等ノ發生ナキヤ

第四章　取扱上ノ注意

第十一條　各樞軸部及摩擦部（青銅ト青銅、黄銅ト黄銅又ハ黄銅ト黄銅ノ摩擦部ヲ除ク）ニハ「ワセリン」ヲ塗布シ其ノ機能ヲ圓滑ナラシムヘシ殊ニ車匡中ノ永轉螺ニハ「ワセリン」ヲ充分ニ塗施シ動車ノ移動ヲ容易ナラシムルヲ要ス

第十二條　雨雪天又ハ濕氣アルトキ及塵埃多キトキニ使用スル場合ニハ眼鏡内ニ水分又ハ塵埃ノ侵入セサルコトニ注意スヘシ又一時使用セサルトキハ覆ヲ用ウルヲ可トス

第十三條　半圓水平机ハ常ニ水平ニ保持シ日光ノ直射及雨露ヲ避ケ必要以外ノ物品ヲ之ニ載セ又ハ依托スヘカラス

第六類　第三編　芭斯式測遠機

目次

第一章　手入……二三頁
第二章　格納……二三
第三章　檢査……二四
第四章　取扱上ノ注意……二五

第六類　第三編　芭斯式測遠機

第一章　手入

第一條　手入ハ第二編第一章ヲ準用スルノ外左ノ如シ

一　貯藏品中基盤ハ各部ヲ拭淨シ高低照準機、方向照準機及支軸等發銹ノ虞アル部分ニハ格納用礦油ヲ塗施スヘシ

二　電池及被覆銅線ハ第八類通信器材ノ手入ニ關スル規定ヲ準用スヘシ

第二章　格納

第二條　測遠機ハ眼鏡及基盤ノ二部ニ分解シテ格納スヘシ

第三條　眼鏡ハ左右兩端ノ筒蓋ヲ回轉シテ窓ヲ閉鎖シ接眼鏡ヲ充分短縮

シテ其ノ蓋ヲ裝シタル後眼鏡格納箱ニ收メテ之ヲ密閉シ箱下ニハ枕木ヲ設ケ空氣ヲ流通セシムル如クシ乾燥セル倉庫ニ格納シ要スレハ覆ヲ裝シ箱ヲ掩護スルヲ可トス但シ眼鏡ヲ眼鏡格納箱ニ收容スルニ當リ其ノ筒ヲ歪曲セシメサルコトニ注意スヘシ

第四條　基盤ハ覆ヲ以テ之ヲ掩護シ乾燥セル倉庫ニ格納スヘシ但シ角度鈑用擴大鏡ハ別ニ附屬箱ニ收容シ格納スヘシ

第五條　電池及被覆銅線ハ第八類通信器材ノ格納ニ關スル規定ヲ準用スヘシ

第三章　檢査

第六條　基盤ハ毎年少クモ一回之ヲ檢査シ特ニ鐵部ニ發銹ノ徵ナキヤ、塗料剝脫セサルヤヲ檢スヘシ又隔年少クモ一回之ヲ組立テ機能上ノ檢査ヲ行フヘシ

第七條　眼鏡ハ毎年少クモ二回（一回ハ雨期後）左ノ各號ニ就キ檢査スヘシ

一　筒ニ歪曲及損傷ナキヤ

二　接眼鏡ノ伸縮機能ニ故障ナキヤ

三　窓硝子、反射稜鏡、「レンズ」、距離尺及其ノ他內部ニ破損ナキヤ

四　硝子面ニ曇リ、斑點又ハ斑紋等ノ發生ナキヤ

五　照明裝置ニ故障ナキヤ

六　其ノ他各部ノ機能圓滑ニシテ使用ニ差支ナキヤ

第四章　取扱上ノ注意

第八條　使用間眼鏡筒ヲ歪曲セシメサルコトニ注意スヘシ若組立タル儘

永ク置クトキハ眼鏡筒ノ兩端ヲ輕ク支持スルヲ可トス

第九條　使用間時時注油壺ニ機軸礦油ヲ注クヘシ之カ爲角度鈑ヲ回轉シテ零分畫ヲ指針ニ一致スルヲ要ス又摩擦部ニハ「ワセリン」ヲ塗施スヘシ

第十條　雨雪天又ハ濕氣アルトキ及塵埃多キトキニ使用スル場合ニハ眼鏡内ニ水分又ハ塵埃ノ侵入セサルコトニ注意スヘシ但シ一時使用セサルトキハ覆ヲ以テ之ヲ掩護スルヲ要ス又覆ハ眼鏡格納箱ニ容ルヘカラメ

第十一條　方向照準螺ノ弛緩シタルトキハ角度鈑駐鈑上ノ駐螺ヲ弛メ角度鈑ヲ脫シ（此ノ際指針ヲ破損セサルコトニ注意スルヲ要ス）永轉螺軸ノ内方軸承（背心臂）ノ側ニアル準鈑上ノ駐牝螺ヲ弛メ之ヲ齒輪ノ方ニ動カシ永轉螺ノ嚙合確實トナリタコルトヲ認メタル後駐牝螺ヲ緊定スヘシ

第六類　第四編　三七式砲隊鏡

目次

第一章　手入……二九頁
第一節　常用品ノ手入……二九
第二節　貯藏品ノ手入……二九
第二章　格納……三〇
第三章　檢査……三一
第四章　取扱上ノ注意……三二

第六類　第四編　三七式砲隊鏡

第一章　手入

第一節　常用品ノ手入

第一條　眼鏡托架ハ使用後各部ヲ拭淨シテ方向齒輪及高低齒鈑ニ「ワセリン」ヲ塗施シ囘轉螺桿及誘導螺桿ヲ囘轉シテ塗油ヲ完全ナラシムヘシ

第二條　三脚架ハ使用後乾燥セル布片ヲ以テ拭淨スヘシ

第三條　計算尺ハ使用後乾燥セル布片ヲ以テ拭淨スヘシ

第二節　貯藏品ノ手入

第四條　貯藏品ノ手入ハ第一節ニ準スル外左ノ各號ニ依ルヘシ

一　眼鏡托架及三脚架球軸ノ鐵部ニ格納用礦油ヲ塗施スヘシ

二　眼鏡嚢ハ第一編第二條第五號第六號ヲ準用スヘシ

第二章　格納

第五條　眼鏡ハ之ヲ別ニ箱内ニ密閉シ乾燥セル場所ニ格納シ眼鏡托架ハ計算尺ト共ニ他ノ箱内ニ收ムヘシ

第六條　一時的貯藏品ニ在リテハ眼鏡嚢ニ收メ乾燥セル場所ニ懸吊又ハ安置スヘシ但シ眼鏡ヲ眼鏡嚢ニ收容スルニハ頭部ノ筒蓋ヲ回轉シ圓窓ヲ反射稜鏡ニ向ハシメテ蓋ヲ裝シ接眼鏡ヲ短縮スヘシ

第七條　三脚架ハ之ヲ疊ミテ締革ヲ以テ緊締シ嚢ニ收ムヘシ

第三章　檢査

第八條　格納セル砲隊鏡（眼鏡ヲ除ク）ハ毎年少クモ一回之ヲ組立テ各部ノ塗料剝脫セサルヤ、高低及方向照準其ノ他機能上ニ故障ナキヤヲ檢査スヘシ

第九條　眼鏡ハ毎年少クモ二回（一回ハ雨期後）左ノ各號ニ就キ檢査スヘシ

一　體ニ歪曲及損傷ナキヤ

二　接眼鏡ノ伸縮機能ニ故障ナキヤ

三　窓硝子、反射稜鏡及「レンズ」其ノ他内部ニ破損ナキヤ

四　硝子面ニ曇リ、斑點又ハ斑紋等ノ發生ナキヤ

五　左右視軸ノ開閉ニ故障ナキヤ

六　垂直及水平兩位置ニ於テ觀測スル物體カ二箇ニ見ユルコトナキ

第四章　取扱上ノ注意

第十條　頭部ノ稜鏡、日光ニ直射セラルルトキ又ハ之ヲ雨天ノ際使用スルトキハ眼鏡ニ遮光筒ヲ裝スヘシ

第十一條　樞軸部及摩擦部ニハ「ワセリン」ヲ塗施シ其ノ機能ヲ圓滑ナラシムヘシ

第十二條　雨、雪、霧、塵砂、泥土等ニ對シテハ勉メテ之ヲ防護シ使用後硝子面其ノ他各部ヲ叮嚀ニ拭淨スルコトニ注意スヘシ

第十三條　眼鏡ヲ眼鏡囊ヨリ出入スルニ當リテハ左右兩視軸ノ間隔ヲ適度ニ開閉シ眼鏡體ヲ變歪セサルコトニ注意スヘシ

第六類　第五編　雙眼鏡

目次

第一章　手入……三五頁
第二章　格納……三五
第三章　檢査……三六
第四章　取扱上ノ注意……三六

第六類　第五編　雙眼鏡

第一章　手入

第一條　使用後ハ各部ヲ叮嚀ニ拭淨スヘシ

第二條　貯藏品ハ硝子面其ノ他各部ヲ精密ニ拭淨シ囊ハ第一編第二條第五號及第六號ニ準シ手入スヘシ

第二章　格納

第三條　接眼鏡ヲ充分短縮シ箱内ニ收メテ密閉シ乾燥セル場所ニ格納スヘシ

第四條　一時庫内ニ格納スルニハ眼鏡ヲ囊ニ收メ乾燥セル場所ニ懸吊シ置クヘシ

第三章　檢査

第五條　毎年少クモ二回（一回ハ雨期後）左ノ各號ニ就キ檢査スヘシ

一　體ニ歪曲、損傷ナキヤ

二　接眼鏡ノ伸縮機能ニ故障ナキヤ

三　「レンズ」其ノ他内部ニ破損ナキヤ

四　硝子面ニ曇リ、斑點又ハ斑紋等ノ發生ナキヤ

五　觀測ニ當リ物體カ二箇ニ見ユルコトナキヤ

六　兩視軸ノ間隔ヲ開閉シ得ルモノニ在リテハ其ノ開閉困難ナルコトナキヤ

第四章　取扱上ノ注意

第六條　雨、雪、霧、塵砂、泥土等ニ對シテハ防護スヘシ

第七條　携帶中ハ成ルヘク其ノ衝突ヲ避ケ尚成シ得ル限リ囊ニ收容スルヲ可トス

第八條　眼鏡ヲ眼鏡囊ヨリ出納スルニハ左右兩視軸ノ間隔ヲ適度ニ開閉シテ眼鏡體ヲ變歪セサラシムヘシ

第六類　第六編　測角器

第六類　第六編　測角器

目次

第一章　手入……四一頁
第二章　格納……四三
第三章　檢査……四四
第四章　取扱上ノ注意……四六

第六類　第六編・測角器

第一章　手入

第一條　眼鏡ハ遮光筒又ハ對物鏡覆ヲ脫シ硝子面其ノ他各部ヲ叮嚀ニ拭淨シ樞軸部ニハ要スレハ少量ノ時計油ヲ塗施スヘシ又對物鏡及接眼鏡ハ充分之ヲ延伸シテ塵埃ヲ拭淨シタル後短縮シ置クヘシ但シ此ノ際接眼鏡ヲ離脫セサルコトニ注意スヘシ

第二條　分畫鈑ハ柔軟ナル毛筆又ハ刷毛ヲ以テ塵埃ヲ拭淨スルニ止メ決シテ之ヲ磨クヘカラス又鐵製樞軸ヲ有スルモノニ在リテハ該部ニ時計油ヲ塗施スヘシ

遊標鈑ハ數回之ヲ旋廻シテ分畫鈑トノ接觸面ヲ拭淨シ其ノ手入終リタルトキハ之ヲ固定シ置クヘシ

第三條　羅針盤ハ盤面其ノ他ノ各部ヲ刷毛又ハ絹布片ヲ以テ拭淨シ磁針ハ壓定螺ヲ以テ之ヲ固定スヘシ

第四條　托架若ハ臺ハ刷毛又ハ絹布片ヲ以テ拭淨シ要スレハ垂直軸、水平螺及各關節部ニ少量ノ時計油ヲ塗施スヘシ

水平螺ハ交互ニ之ヲ下方平行鈑ヨリ離シテ平行鈑ヲ拭淨シタル後上下兩平行鈑ヲ平行ナラシムル如ク緊定シ置クヘシ

三脚架ノ頭鈑ニ螺入スヘキ螺絲部ハ乾燥セル布片ヲ以テ塵埃、汚垢ヲ拭ヒ去リ少量ノ時計油ヲ含マシメタル布片ヲ以テ拭淨スヘシ

第五條　匣ハ内外ノ塵埃ヲ拭淨スヘシ但シ其ノ内面ニ貼付シアル絨面ハ刷毛ヲ以テ拭掃スヘシ

第六條　三脚架ハ布片ヲ以テ鐏部ノ泥土ヲ拭淨又ハ水洗シ之ニ防錆用脂油ヲ塗施スヘシ又脚及頭鈑ハ乾燥セル布片ヲ以テ拭淨シ頭鈑ノ螺絲部ニハ時計油ヲ塗施シ特ニ伸縮脚ハ伸縮裝置ノ機能ヲ害セサル如ク注意スヘシ

第七條　雨雪天時若ハ塵埃多キトキニ使用シタルモノハ三脚架ニ裝著ノ儘柔軟ナル毛筆、刷毛若ハ絹布片、金巾布ヲ以テ砂塵又ハ濕氣ヲ拭淨シタル後、前諸條ノ手入ヲ行フヘシ

第八條　各部ノ塗料甚シク剝脱シタルモノハ塗換ヲ行フヘシ

第九條　貯藏品ハ概前諸條ニ依リ精密ニ手入ヲ行ヒ且鐵部ニハ格納用礦油ヲ塗施スルモノトス

第二章　格納

第十條　眼鏡ハ之ヲ分離シ得ルモノハ分離シ別ニ箱内ニ收容シテ之ヲ密閉シ棚上ニ整頓シ置クヘシ但シ固有ノ測角器ニ應スル如ク番號ヲ記入スルヲ要ス

第十一條　羅針盤ハ之ヲ匣内ニ收容シタル後磁針ヲ磁針子午線ニ一致セシメ之ヲ固定スヘシ

第十二條　托架又ハ臺ハ之ヲ匣内ニ收容シ棚上ニ整頓スヘシ

第十三條　匣ハ其ノ内面ニ絨ヲ貼付シタルモノニ在リテハ「ナフタリン」ヲ入レ蟲害ヲ豫防スヘシ

第十四條　三脚架ハ頭鈑螺子ニ蓋ヲ冠シ脚ハ之ヲ疊ミ締革ヲ以テ緊締シ棚上ニ整頓シ置クヘシ又三脚架ノ袋ハ之ヲ懸吊シ置クヘシ

第三章　檢　査

第十五條　檢査ハ毎年一回之ヲ施行スヘシ但シ眼鏡ハ二回（一回ハ雨期後）檢査スヘシ

第十六條　塗料剝脫シ非ラサルヤヲ檢シ若汚染セルモノアルトキハ第一章ニ依リ手入スヘシ

第十七條　眼鏡ノ「レンズ」、羅針盤ノ蓋及氣泡水準器ノ氣泡管破損ノ有無特ニ「レンズ」ハ硝子面ニ曇リ、斑點若ハ斑紋等ノ發生ナキヤヲ檢シ破損又ハ異狀アルモノハ修理ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條　測角器ヲ組立テ左ノ各號ニ就キ點檢シ故障ノ箇所ヲ發見セハ修理ノ手續ヲ爲スヘシ

一　眼鏡ニ就テハ左ノ如シ

イ　水平軸ハ鉗子ヲ以テ螺著セサルモ適當ノ壓迫ヲナセルヤ

ロ　鏡筒及對物、接眼兩鏡筒ノ伸縮裝置及水平軸ノ回轉裝置ノ機能良好ナルヤ

ハ　較合絲及「スタヂア」線ハ切斷シ非サルヤ

二　分畫鈑ハ回轉裝置圓滑ナルヤ制動螺及微動螺ノ機能良好ナルヤ

三　羅針盤ハ磁針藍尖端ニ鐵體ヲ近接シテ之ヲ盤ノ周圍ニ動カスト

キハ之ニ伴隨シ鐵體ヲ遠サクレハ數回轉ノ後舊位ニ復スルヤ

四　托架若ハ臺ハ回轉裝置圓滑ナルヤ、制動螺、微動螺及水平螺ノ機能良好ナルヤ

五　匣ハ内面ノ絨剝脫セサルヤ又蟲害ヲ蒙ラサルヤ

第四章　取扱上ノ注意

第十九條　對物鏡ニ日光ノ直射ヲ受クルトキ若ハ雨雪天時ニ際シテハ對物鏡ヲ掩護スルタメ遮光筒ヲ以テ之ヲ被フヘシ

第二十條　使用中一時休止スル場合ニハ日光ノ直射、雨雪及塵埃ニ對シ測角器ヲ掩護スル爲メ適當ノ覆ヲ翳シ又ハ測角器ヲ掩蓋下ニ置ク等ノ處置ヲナスヘシ

第二十一條　測角器ヲ組立テタル儘運搬ヲ爲スニ當リテハ其ノ運搬中測角器ノ各部ヲ歪曲シ若ハ毀損スルコト多キヲ以テ左ノ各號ニ注意スルヲ要ス

一　眼鏡ヲ垂直ニ爲シ得ルモノニ在リテハ之ヲ垂直ニ固定スルコト

二　氣泡水準器ハ被套ヲ以テ被フコト

三　磁針ヲ固定シ諸駐螺ハ之ヲ緊定スルコト

四　脚ノ尖端ヲ地上ニ衝突セシメサルコト

五　他物ヲ測角器ト共ニ携帶セサルコト

第二十二條　測角器ヲ取扱フニハ成ルヘク臺若ハ托架ヲ把持スルヲ要ス

第二十三條　三脚架ハ各部ノ螺子ヲ緊定シ測角器ヲ動搖セシメサルコトニ注意スヘシ

第二十四條　測角器匣ニハ運搬中動搖ヲ避クル爲メ測角器ニ應スル托架ヲ設ケアルヲ以テ常ニ收容ノ關係位置ヲ知悉スルヲ要ス若蓋ヲ正シク

閉鎖スル能ハサルトキハ收容ノ位置適當ナラサルニ起因スルヲ以テ測角器ヲ取リ出シ托架トノ關係ヲ檢シ徐ニ蓋ヲ閉ツヘシ其ノ他收容前ニハ豫メ各螺子ヲ緊定スルコトニ注意スヘシ

第六類　第七編　望遠寫眞機

目次

第一章　手入……五一頁
第二章　格納……五三
第三章　檢査……五四
第四章　取扱上ノ注意……五六
第五章　修理方法ノ概要……五七

第六類　第七編　望遠寫眞機

第一章　手入

第一條　「レンズ」ハ鏡面ニ取リ付ケタル儘其ノ外面ニ附著セル塵埃ヲ毛筆又ハ刷毛ヲ以テ拭淨スヘシ若雨露ノ附著シアルトキハ金巾布ヲ以テ之ヲ除去シ第一編第二條第三號ニ示セル溶劑ヲ含マシメタル絹布又ハ金巾布ヲ以テ之ヲ拭淨スヘシ

第二條　鏡筒ハ充分ニ延長シ刷毛ノ類ヲ以テ塵埃ヲ除去シタル後金巾布ヲ以テ舊油ヲ拭淨シ螺絲部及內鏡筒面ニ少量ノ時計油ヲ塗施シ內鏡筒ヲ伸縮シテ油ヲ普及セシムヘシ

第三條　暗函ハ鏡筒及艶消硝子ヲ脫シ刷毛ヲ以テ內外ノ塵埃ヲ拂ヒ要スレハ「オゾケラトイ」ヲ其ノ布地ニ塗施シ暗函附屬ノ金具ハ柔軟ナル鹿

革ヲ以テ磨キ鏡筒取付坐鈑ニ於ケル牝螺溝ハ之ヲ拭淨シタル後時計油ヲ給スヘシ

第四條　遮光器ハ刷毛ヲ以テ塵埃ヲ拂フヘシ

第五條　取枠ハ引蓋ヲ脫シ內外部ノ塵埃ヲ刷毛ヲ以テ拂フヘシ但シ取枠ノ拭淨ニ際シテハ內面ノ黑色塗料ヲ剝脫セシメサルコト及引蓋ト枠トノ密接部ニ間隙ヲ生セシメサルコトニ注意スヘシ

第六條　携帶暗室ハ各開口部ヲ開放シタル後內外面ノ塵埃ヲ拭淨スヘシ但シ汚染甚シキトキハ水洗スルコトヲ得

窓硝子等ハ酒精ヲ用ヰテ拭淨シ鐵部ハ揮發油ヲ含マシメタル布片ヲ以テ拭淨シタル後常用礦油ヲ塗施スヘシ

第七條　各部ノ塗料甚シク剝脫シタルモノハ塗換ヲ行フヘシ

第八條　望遠寫眞機匣ハ刷毛ヲ以テ內外ノ塵埃ヲ拭淨シ革具ニハ要スレハ少量ノ脂油ヲ塗施スヘシ

第九條　貯藏品ハ前諸條ニ準シ精密ニ手入ヲ行ヒ又鐵部ニハ格納用礦油ヲ塗施スヘシ

第二章　格納

第十條　望遠鏡及照準鏡ハ別ニ箱ニ收容シテ之ヲ密閉シ棚上ニ整頓シ置クヘシ

第十一條　暗函及其ノ他ノ屬品ハ匣ニ收入シ棚上ニ整頓スヘシ

第十二條　遮光器附屬ノ護謨製品ハ硝子罎ニ容レ密閉シ置クヘシ

第十三條　携帶暗室ハ折疊シテ其ノ內部ニ「ナフタリン」ヲ入レ之ヲ箱內ニ密閉シテ格納スヘシ

第三章　檢　査

第十四條　望遠寫眞機ハ左ノ各號ニ就キ檢査スヘシ

一　硝子面ノ狀態及防濕裝置ノ良否

二　暗函破損ノ有無、拭淨ノ良否及內部塗料ノ狀態

三　遮光器機能ノ良否

四　取枠破損ノ有無

五　携帶暗室機能ノ良否及破損ノ有無

第十五條　硝子面ノ狀態及防濕裝置ノ良否ヲ檢スルニハ第一編第三章ニ準シ行フヘシ

第十六條　暗函破損ノ有無ヲ檢スルニハ艶消硝子ヲ除去シ遮光器ヲ開キタル後對物鏡ニ覆ヲ、暗函ニ冠布ヲ裝シ少クモ數分間直射日光下ニ於テ綿密ニ點檢シ光線ノ漏洩スルコトナキヤヲ確ムヘシ

第十七條　暗函拭淨ノ良否及內部塗料ノ狀態ヲ檢スルニハ暗函後端ノ艶消硝子ヲ除去シ冠布ヲ裝シ暗函內部ヲ檢スヘシ此ノ際光輝ヲ發スル部分ヲ認メタルトキハ黑色塗料剝脫シタルモノナルヲ以テ修理ノ手續ヲナスヘシ

第十八條　遮光器機能ノ良否ヲ檢スルニハ數回遮光器ヲ作用セシメタル後週期ヲ測リタル振子ヲ基準速度表ニヨリテ準備シ實際ニ之ヲ撮影シ其ノ影像鮮明ナルトキハ遮光器ノ機能完全ナルモノトス

第十九條　取枠破損ノ有無ヲ檢スルニハ新鮮ナル乾板ヲ取枠ニ裝シ之ヲ直射日光ニ數分間曝露シタル後現像スヘシ若取枠ニ破損ノ箇所アルトキハ光線ノ侵入ニ依リ乾板ニ感光スルモノトス

第二十條　携帶暗室破損ノ有無ヲ檢スルニハ第十六條ニ準シ行フヘシ

第四章　取扱上ノ注意

第二十一條　鏡筒ヲ暗函座金ニ裝脫スルニ當リ急激ニ行フトキハ礬素製螺絲部ヲ毀損スルニ至ルヲ以テ注意スルヲ要ス

第二十二條　遮光器ノ布幕ヲ開放シ置クトキハ其ノ發條ノ機能ヲ害スルニ至ルヲ以テ注意スルヲ要ス

第二十三條　取枠、引蓋ハ之ヲ急激ニ裝脫スルトキハ變形ヲ來シ又ハ挿入口ノ羅紗ヲ毀損シ爲ニ完全ニ密閉スルコトヲ得サルノミナラス臨時ニ之ヲ修正スルコト困難ナルヲ以テ注意スヘシ

第二十四條　撮影ニ際シテハ外氣ノ交感ニヨリ時トシテ硝子面ニ微細ナル露ヲ發生スルコトアルヲ以テ撮影前必ス點檢ヲ行ハサレハ種板ヲ全ク無效ナラシムルニ至ルコトアリ

第二十五條　直射日光下ニ長時間寫眞機ヲ曝露スルトキハ木製部ハ自然ニ變歪ヲ來シ金屬部ハ膨脹シテ「レンズ」トノ密著ヲ害スル虞アルヲ以テ永ク放置スル場合ニハ必ス冠布ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

酷寒ノ季節ニ於テモ前項ト同樣ノ注意ヲ要ス

第五章　修理方法ノ概要

第二十六條　暗函內面ノ黑羅紗剝脫スルトキハ盤石糊ヲ以テ貼付スヘシ

取枠ノ引蓋挿入口ノ黑羅紗毀損シ光線侵入ノ虞アルトキハ押木ノ螺子ヲ脫シ新ラシキ黑羅紗ト交換シ盤石糊ヲ以テ貼付スヘシ

第二十七條　取枠發條ノ彈性ヲ失ヒタルモノハ木篦ニテ扛起シツツ屈曲セシムヘシ

大正年三八月二十六日印刷
大正三年八月二十九日發行

（兵器保存要領第六類奥附）
定價 金七錢

兵用圖書株式會社發行之證

東京市麹町區平河町一丁目二番地
翻刻發行者 兵用圖書株式會社
代表者 小林又七

東京市麹町區隼町四番地
印刷者 高井福太郎

發行所 東京市麹町區平河町一丁目二番地
兵用圖書株式會社
電話特番三七七四番
振替東京一八〇八八番

274
979

終